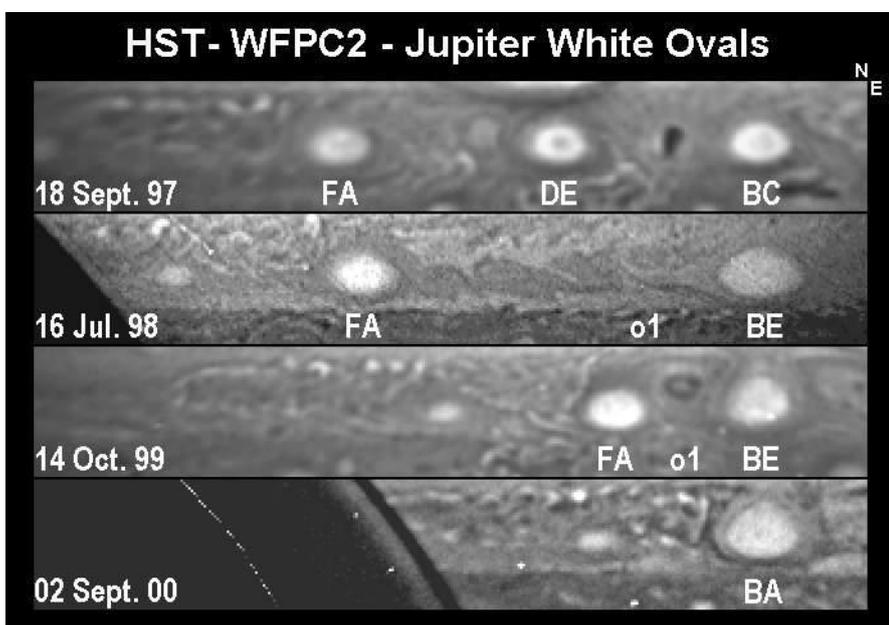


木星～^{うず}渦の惑星



ハッブル宇宙望遠鏡で撮影した3つの白斑が合体して1つになる様子

木星には大赤斑^{だいせきはん}以外にも多くの渦があります。代表的なものが南半球にあるBA^よと呼ばれる斑点です。(白いので白斑と呼ばれたりします。)もともとは1940年代^{はじ}初めころ出来た3つの渦が、徐々に^{じょじょ}縮みながら^{ちぢ}合体して今では1つの渦となっています。大赤斑ほどではありませんが、もう80年^{そんぞく}も存続し

ていることとなります。

この3つの渦は、地上からの^{かんさつ}観察でもよく見られ、永続白斑 (LEBS: Long Enduring Bright Spot) と呼ばれていました。1980頃^{ころ}からはSTO (South Temperate Oval)、または単^{たん}にオーバル (Oval) と呼ばれるようになりました。大赤斑と同じ^{せいしつ}性質を持つ高気圧性^{こうきあつせい}の渦です。長い間^{しゆくしやう}に縮小しており、1940年代には^{けいど}経度方向の長さが今の8倍もありました。大赤斑のように時々赤くなる^{しょうせきはん}ことがあり、小赤斑 (Small Red Spot) と呼ばれることもあります。

プラネタリウムでここまでの話をすることは滅^{めった}多にありません。

(解説員: 田部一志)